

事業報告

令和2年度 学校・家庭・地域による「学びの未来」創造事業
企業・高校等を活用したチャレンジ教室開発事業「県によるプログラム提示」

日時：令和2年12月6日（日）

会場：大分県立図書館 視聴覚ホール、各研修室

市町村参加者：5人（1市町）/児童参加者：16人

<研修趣旨>

「大分を知る、おおいたを学ぶ、おおいたを体験する」ことのできる小学生向けの各種体験プログラムを多様な経験をもつ外部人材と連携して、開発・実施し、併せて市町村へのプログラム紹介・普及を図る。

<研修内容>

【第1部】▼「ふるさと再発見！おおいたのタカラモノ体験」

プログラム見学

協力団体：協力団体：「おおいたの文化」：大分県立埋蔵文化財センター

「おおいたの歴史」：大分県立歴史博物館

「おおいたの林業」：株式会社トライ・ウッド

子ども達は、準備した3つの「おおいたの魅力を学ぶ体験プログラム」のうち2つを体験しました。

「おおいたの文化」では、古代の歴史を学び、はにわ粘土を使った犬形土製品を作りました。「おおいたの歴史」では、卑弥呼の時代を想像しながら鋳造により鏡を作りました。

「おおいたの林業」では、年輪を数えたり、山の土の保水力の実験をして林業の仕組みを学び、津江杉を使った絵葉書やコースターづくりをしました。



【主催者あいさつ】
大分県立図書館 副館長兼学校・地域支援課長 森山 貴仁



【第1部】
おおいたの文化（大分県立埋蔵文化財センター）



【第1部】
おおいたの歴史（大分県立歴史博物館）



【第1部】
おおいたの林業（株式会社トライ・ウッド）

【第2部】 ▼実演団体との協議・意見交換

県立図書館からの事業説明の後、各団体から実践したプログラムの説明や他のプログラムの紹介、今後市町村で実施する場合の手続き等について意見交換を行いました。

協力団体が持っている他のプログラムも聞く中で、研修参加者から「見学したい、体験したい」と嬉しい声を聞くことができました。

<参加者感想>

【小学生】

- 大分の杉のことがわかった。
- 歴史の磨くところが楽しかった。
- 昔の人が工夫して土器を作っていたことが分かった。
- 林業でコースターや絵葉書づくりがとても楽しかった。
- 犬形土製品を作るのが難しかった。

【研修参加者】

- それぞれの団体がわかりやすい説明のもと体験する時間を多く取っていた。
- 持ち帰れる作品ができてよかった。
- 体験学習の参考にしたい。